

福井支部ニュース

2025年度 第5号

日本科学者会議福井支部

連絡先：山本雅彦、masahiko@mbp.nifty.com

郵便振込口座番号 00710-9-17967 日本科学者会議福井支部

支部ホームページ <https://jsafukui.net/>

科学者会議本部 <http://www.jsa.gr.jp/>

今号の内容

- ◆報告 2025年度 JSA 福井支部 臨時／第4回幹事会概要(山根 清志)
- ◆追悼 山本富士夫先生の思い出(その3) (永井 二郎)
- ◆土竜時評 トランプ政権への従属を隠そうともしない高市政権
報道からからみるジャーナリズム時評(その8) (土竜 百聞)

[報告] 2025年度 JSA 福井支部臨時幹事会の概要

10月6日(月)18:00時から19時10分過ぎまで、9名の福井支部幹事出席の下、オンライン方式で、2025年度JSA福井支部臨時幹事会が開催され、1、2の議題が討議された。

1、例会について

小野幹事より、「能登研」が8月30日、31日の両日行った現地訪問調査(能登震災復興の「いま」と「これから」)について、その内容報告と情報共有を目的として、現地訪問に参加したメンバーからの報告だけでなく、他の団体や個人が行った復興支援活動についても交流し、ディスカッションする「例会」を開催することが提案された。

すなわち10月25日(土)14:00~16:00、県教育センター4階ホールにて、「震災復興、新たなフェーズへ」というテーマで開催、ファシリテー

ターを小野幹事とすることを確認。Zoom配信とチラシ作成は山本雅彦事務局長が担当することとなった。

報告者(話題提供)は、国土研の大豊英則氏と高校一年生(震災列車乗車体験談)を予定しており、参加のよびかけとしては、これまで震災ボランティアに参加している民医連・医療生協、新婦人、労働団体などにチラシを届け、参加要請することになった。

2、山本富士夫先生を「偲ぶ会」について

(1) 日程等について

山本事務局長より、10月6日午後2時からの3団体(AALA、原発連絡、JSA 福井)の打ち合わせで、「山本富士夫先生を偲ぶ会」を11月24日(祝日)、午後2時(1時30分開場)から4時まで、県教育センターの4階ホールを会場に開催する旨確認したとのこと。主催を「山本先生を偲ぶ会実行委員会」とし、会費は1,000円で食事は提供しない。第1回目の「実行委」を10月23日に開催することになった、と報告があった。

次第については、金森洋司先生の開会の挨拶、各団体から3名程度の挨拶、その後「山本先生を偲ぶスライド」を上映し、次いで参加者の献花があり、最後に中嶋哲演氏の閉会挨拶で終える案が紹介された。

(2) 追悼文集について

「偲ぶ会」の話と併せて追悼文集作成の話が出ている件について、これについても今後開かれる「実行委」で内容を決めて行うことになると報告があった。追悼論文集の編集委員には、高木秀男『福井の科学者』編集委員長、宮本重信幹事、伊藤勇幹事にも参加して欲しいとの要請があった。

[報告] 2025年度 JSA 福井支部第4回幹事会の概要

11月3日「文化の日」の夕刻、18:00時過ぎからJSA福井支部第4回幹事会がオンラインにて開催された。山本事務局長がはじまりを宣し、森代表幹事の挨拶があって、審議に入った。審議は予め知らされていた議題の順にすすめられた。

1、「山本富士夫先生を偲ぶ会」について

10月30日、「山本富士夫先生を偲ぶ会」の第2回実行委員会が開催され、「偲ぶ会」向けての準備に係る諸々について話し合われた。

それを承けて【これまで決まったこと】がリストアップして提示されたが、大半が問題無く認められた。ただ、「偲ぶ会」において各団体から挨拶する3名程度というのを誰にするかについては結論を得るところまでいかなかった。

また、追悼文集の制作方法との関連で、原稿提出者が提出する書式の統一・不統一等をめぐって長時間にわたり議論が紛糾し、実行委員会で議論し決定すべきだということになった。第3回の実行委員会の日程は、11月18日（火）午前10時より開催することが決まっている。

2、「能登研」研修報告をテーマにした支部例会について

10月25日（土）の福井支部例会「能登震災復興、次のフェーズへ～能登現地研修報告…」は、Zoom参加がホストを入れて10名、対面での参加が9名、YouTubeライブ視聴者が40名で、合計、59名の方々の参加・視聴があったことを確認。当日の幹事会では、参加したそれぞれの幹事から当日の例会についての印象が語られた。

3、北陸3県の事務局長会議について

(1) JSA61期 第3回幹事会について

「JSA事務局ニュース11月1日発行付録」を参照とのこと。

(2) 北陸シンポについて

①主催はJSA 富山支部、②メインテーマは「廃棄物を巡って(仮)」、③趣旨：今回のシンポジウムでは、北陸における廃棄物を巡る課題を取り上げ、市民の視点に立って議論することとしたいとのこと、④開催日（案）としては、2026/4/18(土) あるいは 4/19(日), 4/25(土), 4/26(日)。以下略。

4、JJSの電子ジャーナルの利用に関するアンケートについて

福井支部からアンケートへ回答した会員はいないが、「JSA事務局ニュース11月1日発行付録」10～11ページの「JJS電子版の利用についてのア

ンケートの実施について」に、全国から寄せられた質問に対する回答(Q&A)が掲載されている旨、紹介があった。

6、例会について……積み残しなどの例会への具体化

①樋口英明元裁判官の映画「原発をとめた裁判長」(小原浩靖監督)について

②島崎邦彦氏の著書『3.11 大津波の対策を邪魔した男たち』について

③学問の自由と「大学の自治」の問題について

以上の3つについて、議論に上ったのは③であったが、今後ともメール審議で具体化を行うこととなった。

9、会員拡大と会計について

伊藤担当幹事より、(1)現在残高、(2)10月の支出と入金、(3)会費納入状況、(4)会員拡大、(5)今後の予定、について説明があった。

他の議題、5：JSA 問題別委員会への参加呼びかけについて、7：『福井の科学者』について、8：支部ニュースについて、はさしたる審議なし、その他は省略。

最後に森代表幹事の閉会の挨拶があり、20:20に会議は終了。参加幹事は8名であった。次回幹事会は、明年1月5日（月）18:00～。

支部ニュースへの寄稿・投稿を

支部ニュースを支部会員間の交流の場とするため、積極的な寄稿・投稿をお願いします。

◆ジャーナル評論：「日本の科学者」「福井の科学者」の評論

◆時事評論・批評、意見・見解、訴え、広報など

◆活動・経験報告、事例紹介、行事案内、会員への案内・お知らせ

その他、エッセー、書評、文芸作品の紹介など、何でも支部ニュース

担当者までメールでお送り下さい。 yamane@f-edu.u-fukui.ac.jp

ogura@u-fukui.ac.jp

[追悼] 山本富士夫先生の思い出（その3）

山本富士夫先生の思い出（その1）では主に卓球、思い出（その2）では主に研究にまつわる話を記しました。思い出（その3）として、その他のエピソードや山本先生と私の関係性について触れたいと思います。

山本先生は、こうと決めたら持ち前のエネルギーを発出してバリバリと物事を進めることがよくありました。それが周囲との軋轢を生むこともありましたが、ここでは成功事例を1つ紹介します。2001年の春頃でしたか、山本先生は工学部長に就いている時で、山本先生や私が所属していた機械工学科内にトップダウン的に、「韓国の釜慶大学校(PKNU)の機械系学科と実質的な国際交流関係をスタートさせる。ついては秋頃に10名程度の教員をPKNUに派遣し、教員同士で研究紹介を行い、国際共同研究の可能性を探りましょう」との指示がありました。当時若手だった私にこのような話が来る前に、当然、機械工学科の教授会にて議論がなされたのだと思いますが、私は詳細を知りません。当初私は「何のために？なぜ？」と疑問を抱きましたが、自分の研究分野の国際会議ではなく、普段大学で一緒に仕事をしている機械工学科の教員10名で韓国に数日間旅行できるという楽しみもあって、手を挙げました。私は、機械工学科の他分野の先生達が英語で自身の研究概要紹介をしているのを初めて聴講し、大変新鮮味がありましたし、PKNUの中に自分と同じような研究をしている先生がいることも知りました。この半ば強引にスタートした国際交流事業は、次第に、教員同士の研究交流から、お互いの大学院生の英語による研究発表交流事業へとスタイルや目的を変え、規模も拡大され、ISAMPE（機械・動力工学系の国際シンポジウム）と命名されました。2005年からは中国の上海理工大学(USST)が加わり日中韓の3大学事業となり、2024年からはマレーシアのマレーシア大学サバ校(UMS)も加わり、今年2025年にはUSST（上海）で開催されました。その上海でのISAMPEでは、山本先生を追悼する特別講演がUSSTのCai教授により行われ、20数年にわたるISAMPEの発展にいかにか山本先生が貢献されたかが紹介されたそうです（私は所用のため欠席）。ISAMPEを継続するためには、教員の作業負担と経費負担がかかります。

おそらく山本先生以外の教員が言い出しても、周囲の反対意見に押されて実現しなかったと思いますが、山本先生が最初に突破口を開いてくれたおかげで、今まで20数年実りある国際交流事業が何とか続きました。心よりお礼を申し上げたいと思います。

最後に、山本先生と私の関係性について。（その1）で記したように、1993.4に私が福井大学に着任した直後から、ずっと山本先生は私に対して好意的に接して下さいました（少なくとも私はそう感じています）。ただ、山本先生と私は、物事へのスタンスが必ずしも一致していた訳ではありません。山本先生は晩年(2010年代～2020年代)は、反原発・反軍事政策・反安倍政権（反自民党政権）で一貫して諸活動に従事しておられました。年に数回ほど、私の部屋にこられて1～2時間熱く主張を語られました。ほとんどの場合私は、あいまいに反応するだけで専ら聞き役に徹していたのですが、あれは2018年頃でしょうか、アメリカがトランプ政権になっていた頃に、いつものように反安倍政権の主張をされました。私は、こんなことを言う山本先生から激怒され絶交されるかとも思いつつ、安倍政権の外交を褒めるようなコメントをしました。山本先生は「はい、はい、永井先生の言うとおりです」と笑顔で聞いて下さったのですが、私の話が終わると反安倍政権の主張に戻りました。私の話は理解してもらえたのかどうか、今となっては知るよしもありませんが、山本先生と最後にお会いできた2025.5の時まで、ずっと私に好意的に接して頂きました。30数年間大変お世話になりました。心よりご冥福をお祈り申し上げます。

（完）

（永井 二郎）

2025年後期の会費納入をお願いします

2025年後期の会費納入をお願いします。また、過去の未納会費のある方は、分納でも構いませんので、至急納入をお願いします。

